

## 取り組み事例

## JR東日本スタートアップによる投資先との協業プロジェクトの可視化支援



## 事例概要

- 企業：CVC(JR東日本スタートアップ)／地域スタートアップ(ドッツアンドライズ)
- 提供サービス：インパクトの設計・指標化・調査・クリエイティブ制作までを一気通貫で実施
- 成果物：JR東日本グループの多面的な支援と地域での価値創出を可視化した「インパクトブック」

## 課題・ニーズ

- ✓ 投資活動の目的や成果を社内外に明確に共有し、理解・共感を深めたい
- ✓ 資金提供だけでなく、駅空間・ネットワーク活用など多様な支援を含む価値を定量・定性で示したい
- ✓ 地域事業者や行政との共創を、説得力ある形で外部にも発信したい

## インパクトサークルの取り組み

- ✓ 目指す姿とロジックモデル策定:地域課題を抽出し、ロジックモデル化
- ✓ アウトカム指標化とデータ収集:製品創出、新規案件獲得、モチベーション向上など短中期アウトカムを指標化し、定量・定性データを取得
- ✓ 定性的インパクトのストーリー化:会員企業へのインタビューで行動変容や実感を可視化
- ✓ インパクトブック制作:写真・図解・コメントを活用し、理解と共感を促す構成

## 成果

- ✓ 社内理解促進:投資意義や成果を全社で共有し、投資案件に関わらない部門にも認識が浸透
- ✓ 地域ステークホルダー関係強化:行政・経済団体・教育機関との信頼関係構築に活用
- ✓ 説明力向上:投資先候補やパートナーに対して、社会的価値を明確に伝えられる資料として機能。

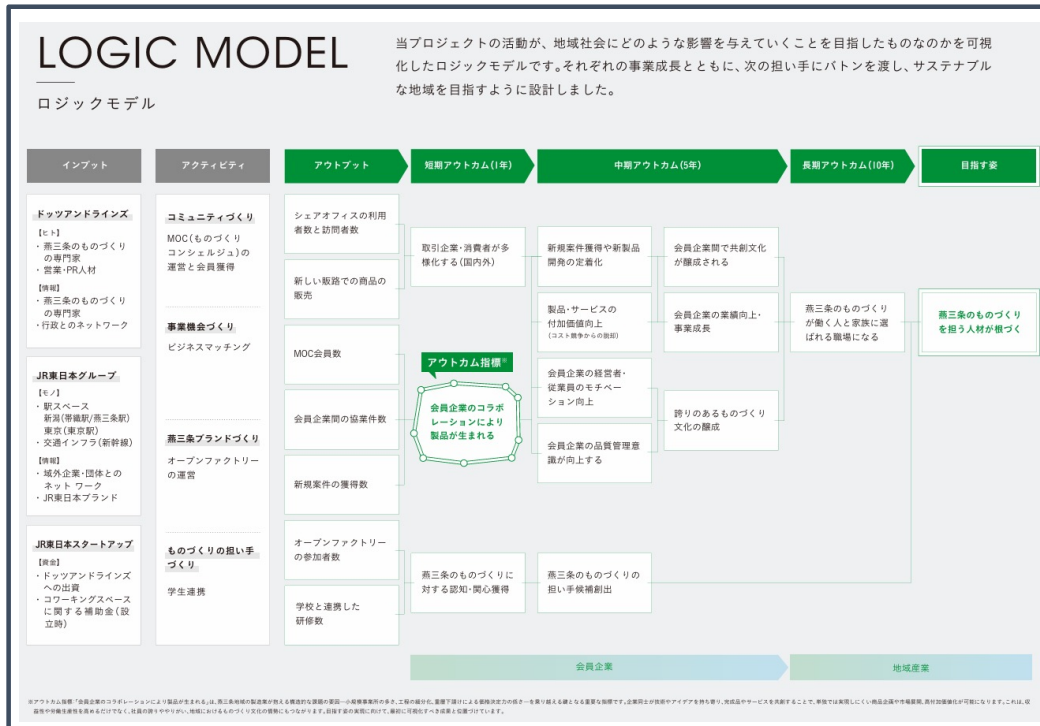
取り組み事例

JR東日本スタートアップによる投資先との協業プロジェクトの可視化支援



成果物

協業プロジェクトが目指すロジックモデル



協業プロジェクトの受益者である会員企業のインタビュー

### Interview

株式会社S・P・I  
代表取締役  
更科 伸悟 さん  
Shingo Shiga

御社の紹介をお願いします。

SPIは2015年に創業しました。父が研修の仕事をしていたので、その工場で技術を身につけた後、独立しました。ゼロからのスタートでしたが、3年ほどで少しずつ経営が回るようになりました。精度や選員の違いはあれ、研修するという行為自体は昔から行われていたことですが、ステンレス、チタン、アルミ、銅など対応の幅が広いことやロットの大小も問わず、さらに現場での対応も可能なことが弊社の大きな強みだと思います。研修の「向でも屋」と言えるかもしれません。

事業の課題があれば教えてください。

父の工場を手伝っていた時から、若手を育てる立場にいたため、営業の経験がなく方法をわからないことですかね。これまではありがたいことに地域の企業からお仕事をいただけていますが、事業拡大を考える時に必要だと考えています。また品質についても、弊社は「良品100%」を目標としていて、一つのミスが信用を失うことになっていきます。なので目標と実感でしっかりチェックして感覚で仕上げます。時には安価な仕事に飛びついてしまいそうですが、それは場合によっては品質を下げ、工賃も上がらないという悪循環の原因になる可能性があるため、十分に注意しています。

人材育成や担い手に関して、どのようにお考えですか？

目標として、1年間で1人従業員を増やせるように考えており採用活動をしています。難しさと言えば、研修は磨くものによっては身に付くまでに30年かかると言われていて奥深いものです。技術は教えることができますが、素材と向き合ってから個々の考え方とか感性が頼りになります。要は向き不向きがあると思うんです。技術継承のためにも、根気よくかつ柔軟なものの見方ができる若手を増やしていけたらと思います。

MOCに参加して大きく変わったと感じることはどんなことですか？

簡単に言うと、色々な経験をさせてもらえるところですね。普段は研修に関する仕事をメインにしているわけですが、MOCから紹介いただく仕事の中には、完成イメージをいただいて、「これ作って」というものもある。その場合、図面から書いていかなければならないし、弊社でできない工程もたくさんあるので、それぞれの工場と連携してやっていく必要が出てくる。今まではいただく仕事を遂行する流れでしたが、依頼する側の仕事も担うことになりました。専門の研修の部分でも、素材がチタンの複雑な形状のものであれば技術と経験が試されます。仕事とともに売り上げも増え、ネットワークも広がって応用技術も養われ、とても助かっています。

将来の展望があれば教えてください。

一つは、事業を拡大していきたいです。今は小さな工場ですが、広い工場を建てて、新しい分野へのチャレンジもしていきたいと考えています。それから、担い手不足解決のために「研修の可能性は無限大。組み合わせ次第でもできる面白さがある」という研修の魅力を広く伝えていきたいです。

出典:燕三条こうばの窓口「IMPACT BOOK発行について」<https://factory-window.jp/impactreport>